

医薬・バイオケミカルの戦略

協和発酵キリン

KYOWA KIRIN

国内市場環境

少子高齢化社会で国民皆保険制度を維持していくため医療費抑制策が進展し、これに伴う後発医薬品の浸透、薬価制度の大幅な改定により、医薬品市場の伸びは鈍化が継続していく可能性があります。

研究開発志向型の製薬企業は、収益の源泉を長期収載品から新薬へ、国内からグローバルへの転換を早めていく必要があります。協和発酵キリンは、最先端のバイオ技術を基盤に、常に新しい価値を創造し続ける企業グループとして、新薬開発を中核に、バイオシミラー、バイオケミカルの各事業を総合した医薬事業モデルを追求し、「グローバル・スペシャリティファーマ（GSP）への飛躍」を目指します。GSPへの飛躍をテーマとする5ヵ年計画が2016年-2020年中期経営計画〔図11〕であり、最終年度である2020年の経営目標として、コア営業利益1,000億円以上、海外売上比率50%、ROE10%以上を掲げています。

5ヵ年中期経営計画では、4つの戦略課題の達成に取り組んでいきます。

① グローバル競争力の向上

グローバル戦略品であるKRN23（プロスマブ）、KW-0761（モガムリズムマブ）の欧米上市を実現させ、世界の人々の健康と豊かさへの貢献に向けて取り組んでいきます（[📖](#) KRN23については、P.28をご覧ください）。KW-0761は、皮膚T細胞性リンパ腫を対象疾患として欧米で申請を行い、米国ではKRN23に続き2つ目の優先審査品目指定を受けています。これらグローバル戦略品は、その製品価値最大化に向けて、市場浸透施策や事業地域の拡大を進めています。

② イノベーションへの挑戦

腎、がん、免疫・アレルギー、中枢神経の4つのカテゴリー別に設けた各研究所にて、疾患および患者ニーズの深耕により得られた知見と、強みである抗体医薬をはじめ、低分子医薬、核酸医薬、再生医療の領域で培ってきた最先端の創薬基盤技術やオープンイノベーションによる外部技術を組み合わせることで、新薬創出型の製薬企業として魅力あるパイプラインの構築を目指します。

③ 卓越した業務プロセスの向上

研究開発から製造・販売まで一貫した各機能のさらなる連携強化を進め収益力の向上を図るとともに、国内外のグループ社員が守るべき価値観・行動準則を浸透させ、グローバルガバナ

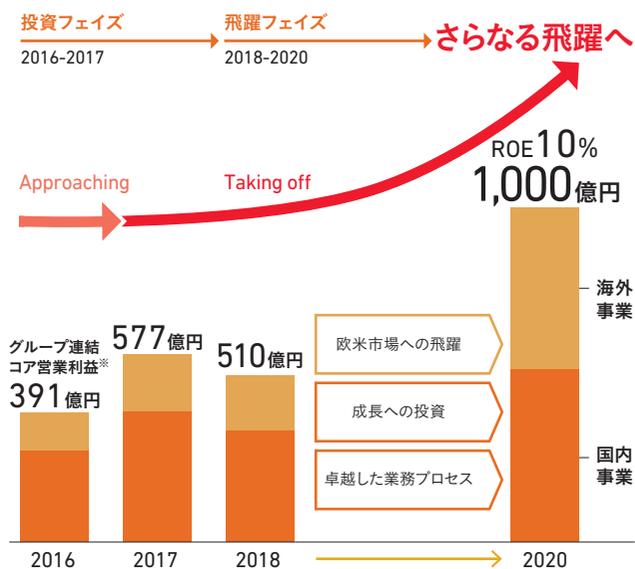
ンス体制の構築やコンプライアンス意識の徹底に努めています。

④ 健康と豊かさの実現

アンメット医療ニーズを充足する革新的医薬品の創出、適応拡大・剤形追加や高品質な製品の安定供給を実施しつつ、医療費抑制策に対する社会的要請への対応策を実施していきます。これを協和発酵キリンのCSVと位置づけ、多様化する医療ニーズに貢献していくとともに、グループ内での連携のもと、健康と豊かさの実現に向けて取り組みを進めていきます。

バイオケミカル事業では、医薬・医療・ヘルスケア領域のスペシャリティ分野での高いシェアを活かし、「収益基盤の強化」と「健康を基軸とした価値提供」を重要課題として取り組みます。収益基盤の強化については、製造拠点の再編を順調に進めてきていることに加え、将来の高収益事業創出に向けた取り組みとしてキリングループ共同で立ち上げたブランド「iMUSE（イミューズ）」をはじめとした新製品の共同開発を進めていきます。

【図11】協和発酵キリングループの中期経営計画



*売上総利益 - 販売費及び一般管理費 - 研究開発費 + 持分法による投資損益